

フクシマ連帯キャラバン報告書

全港湾東北地方ひたち支部 廣瀬 愛斗

福島連隊キャラバンに参加して、福島の現状について実際に見て学ぶことができた。ニュースやインターネットで知っているつもりでも、現地の話や街の様子を見たりすることで、原発事故の影響が今も続いていることを強く感じた。また、復興に向けて努力している人々の姿も知り、福島のために自分たちにできることを考える大切さを学んだ。今回の経験を通して、震災や原発事故の記憶を風化させないように、これからも関心を持ち続けていきたいと思ったし、学んだことを周りの人にも伝えていきたいと感じた。